

# 一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして(10) 富岡甘楽地区の就学前のむし歯予防対策

社団法人 富岡甘楽歯科医師会

萩原吉則 黒澤良介 守谷豪人 入山久美子\* 杉山早苗\* 松本裕美\*

\* 歯科医師会常勤歯科衛生士

## 1. はじめに

富岡甘楽地区は、県の南西部に位置し、富岡市、甘楽町、下仁田町、妙義町、南牧村の5市町村で構成され、南西部は山岳丘陵地帯、北東部は平坦地となっている。圏域の人口は、およそ8万5千人である。富岡甘楽歯科医師会(会員38名)は、平成4年5月に完成した富岡甘楽口腔保健センターに事務局を置き、地域の歯科保健の充実をめざしている。現在、歯科医師会には常勤歯科衛生士3名(1名は主に事務を担当)が勤務し、管内の歯科保健事業に従事する歯科衛生士のリーダーとして、地域歯科保健活動の原動力になっている。

当歯科医師会では、平成5年に公衆衛生活動の目標を具体化した「各ライフステージにおける歯科保健対策」を立案し、生涯を通した歯科保健の確立をめざしてきた。その対策の内容は、乳歯のむし歯予防対策、永久歯のむし歯予防対策、児童生徒の歯肉炎予防対策から始まり、成人・高齢者の歯科保健対策、歯科訪問診療、訪問口腔衛生指導、心身障害者(児)の歯科診療までを含む総合的なものである。

今回は、その一環として実施されている就学前のむし歯予防対策の成果について報告する。

## 2. 富岡甘楽地区で実施されている乳歯のむし歯予防対策

管内全市町村で、乳歯のむし歯予防対策として、健診と歯科保健指導の充実に加えて、フッ素塗布(フッ化物歯面塗布)と「家庭でのフッ化物利用」を組み合わせた対策が実施されている。平成5年度までには、全市町村でフッ化物を利用した乳歯の予防対策を開始した(表1)。事業の実施方法は、各市町村の状況に応じて毎年見直し充実を図ってきた。

表1 乳幼児の歯科保健対策(富岡甘楽地区) 2003年

	歯科保健事業名	年間開催数	対象者	歯科医師数	歯科衛生士数	フッ素塗布	フッ素塗布の実施方法・その他の特記事項	歯科単独事業
富岡市	10か月児健康診査	12回	10か月		3名		歯科衛生士による講話、個別指導	
	1歳6か月児健康診査	12回	1歳6か月	1名	5名		1歳6か月健診で希望者にフッ素塗布	
	にこにこ教室(2歳)	12回	2歳	1名	4名		2歳児の希望者にフッ素塗布	
	にこにこ教室(2歳6か月)	12回	2歳6か月	1名	4名		2歳6か月児の希望者にフッ素塗布	
	3歳児健康診査	12回	3歳	1名	5名		3歳児健診で希望者にフッ素塗布	
甘楽町	はっぴいルーム	24回	ハイリスク児	(1名)	2名		希望者にフッ素塗布を実施、サハライドの塗布、にこにこ教室に併設	
	乳児健診	12回			1名			
	1歳6か月児健診	6回	1歳6か月	1名	2名			
	3歳児健診	6回	3歳	1名	2名			
下仁田町	むし歯予防教室	12回	1歳から3歳6か月	1名	5名		1歳から3歳6か月まで、6か月ごとに合計6回、フッ素塗布を希望者に実施。初回に講話。ハイリスク児は、リコール間隔を1か月～4か月に短縮。	
	乳児健診	6回			1名			
	幼児健診	12回	1歳から3歳8か月	1名	3名		1歳から3歳8か月まで、6か月ごとに合計6回、フッ素塗布を希望者に実施。初回に歯科衛生士による講話。	
	3歳児健診	3回	3歳	1名	3名		3歳児健診で希望者にフッ素塗布	
妙義町	定期健康相談	12回	健診後 フォロー等		2名		ハイリスク児を対象にフッ素塗布を実施、サハライドの塗布。	
	乳児健診	4回			1名			
	幼児健診	4回	1歳半・2歳・3歳	1名	1名			
南牧村	むし歯予防教室	6回	1歳から4歳児(入園まで)	1名	4名		1歳から4歳児(保育園・幼稚園に入園する)まで、4か月ごとにフッ素塗布を希望者に実施。初回に講話。ハイリスク児に対しては、リコール間隔を2か月に短縮。	
	乳幼児健診 むし歯予防教室	4回	1歳から4歳まで	1名	3名		1歳から4歳まで、3か月ごとに合計13回、フッ素塗布を希望者に実施。	

上記の事業で、歯科医師・歯科衛生士・保健師などが、ブラッシング指導・間食食事指導・フッ化物利用(家庭でのフッ化物利用を含む)の指導などを総合的に行っている。歯科医師が従事する事業では健診を実施している。

フッ素塗布は、いずれもフロアゲルを綿球法で塗布。フッ素塗布の開始年度は、下仁田町・昭和63年、甘楽町・平成2年、妙義町・平成4年、富岡市と南牧村・平成5年。家庭でのフッ化物利用としては、フッ素イオンブレー(レノビーゴ)、フッ素洗口剤(ミラノール)、フッ化物配合歯磨剤などの使用を状況に応じて指導している。

### 3. 幼稚園、保育園、幼児園のフッ素洗口と歯科衛生士による巡回歯科保健指導

永久歯のむし歯予防対策としては、フッ素洗口(フッ化物洗口)の普及をめざしている。フッ素洗口は、昭和61年度に甘楽町立の4幼稚園で開始されたが、平成4年度から管内5市町村の保育園、幼稚園に急速に普及した。平成15年3月末現在、富岡甘楽地区の保育園・幼稚園30園中の29園で、4、5歳児1,333名がフッ素洗口を実施している。希望者が対象だが、実施率は98%を越えている。さらに今年度は、富岡市内の幼児園2か所でフッ素洗口が開始される予定である。また、管内のすべての保育園、幼稚園で、園児と保護者を対象に「歯科衛生士による巡回歯科保健指導」が実施されている。

### 4. 結果

管内全市町村で、3歳児のむし歯罹患状況が、dmf者率(表2)、dmf歯数(表3)ともに、大幅に改善した。また、小学校の低学年のむし歯が、乳歯、永久歯ともに大幅に減少した。

表2 富岡保健福祉事務所管内 3歳児健診の結果 むし歯保有者率 / dmf 者率 (%)

	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
富岡市	79.7	75.5	75.9	77.9	72.5	76.9	74.2	68.5	55.9	43.9	42.9	38.5	29.0	35.2	30.4	32.2	28.4
甘楽町	63.6	74.0	78.6	80.9	76.8	82.5	68.2	69.3	59.3	47.7	41.7	42.4	38.3	35.2	27.7	26.0	28.3
下仁田町	86.4	83.0	85.4	78.9	69.5	65.2	76.3	64.0	61.3	62.5	48.1	39.2	21.0	26.8	41.4	26.3	20.6
妙義町	80.0	71.6	69.6	80.6	90.2	77.2	58.1	65.9	48.7	51.4	32.4	41.2	35.1	27.0	25.0	12.5	33.3
南牧村	73.5	76.9	86.8	79.4	82.4	79.3	86.2	75.0	71.4	64.3	38.1	44.4	47.1	28.6	50.0	36.4	36.4
管内合計	77.7	76.0	78.3	78.8	74.3	76.4	73.0	67.9	57.0	48.0	42.7	39.6	30.5	33.8	30.9	29.7	28.0
群馬県	64.4	62.4	63.7	63.8	62.8	60.6	58.8	57.0	55.1	50.3	48.7	46.1	44.6	40.7	38.5	37.7	35.8

表3 富岡保健福祉事務所管内 3歳児健診の結果 むし歯数 / dmf 歯数 (本)

	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
富岡市	4.83	4.78	5.13	4.51	4.72	4.93	4.64	3.99	2.87	2.31	2.29	1.65	1.29	1.46	1.16	1.20	0.97
甘楽町	3.54	5.60	5.51	5.89	5.61	4.89	4.26	4.35	3.57	2.38	1.96	1.65	1.57	1.37	1.00	1.04	1.14
下仁田町	6.90	6.55	6.29	5.06	4.52	4.10	4.79	3.85	3.85	2.08	3.00	1.62	0.79	1.35	1.66	1.25	0.84
妙義町	4.48	4.34	4.34	5.05	5.45	6.16	3.05	3.23	2.51	3.05	1.82	1.56	1.65	0.84	0.81	0.47	1.13
南牧村	4.59	3.85	6.37	5.91	7.12	7.66	7.52	7.92	3.67	2.64	1.38	2.33	2.06	0.86	1.10	0.64	2.18
管内合計	4.92	5.11	5.43	4.91	5.00	4.99	4.61	4.04	3.08	2.33	2.26	1.65	1.32	1.39	1.15	1.13	1.02
群馬県	3.56	3.50	3.63	3.59	3.57	3.31	3.00	3.02	2.85	2.66	2.41	2.22	2.10	2.00	1.79	1.80	1.58

### 5. 考察

富岡甘楽地区では、健診と口腔衛生指導を中心にしたむし歯予防対策が実施されてきたが、あまり成果が見られず、3歳児のむし歯罹患状況が県内12保健所中最下位という状況が続いていた。そこで、平成5年度までに、全市町村の歯科保健事業にフッ素塗布を導入し、指導の内容を見直し、科学的根拠に基づく情報の提供に努め、「家庭でのフッ化物利用」の普及啓発を図った。その結果、全市町村で3歳児のむし歯罹患状況が大幅に改善した。むし歯罹患状況の改善は、充実した口腔衛生指導による保護者の意識の変化、フッ素塗布による「歯質強化」、家庭でのフッ化物利用の普及による「エナメル質の再石灰化の促進」「歯垢中の酸産生能の抑制」などの相乗効果の結果だと考えている。

現在、フッ素塗布を実施している歯科保健事業に参加していない児が、転入者を含めて3歳児健診受診者の2割程度を占める。歯科保健事業に参加していない児の中にも、「かかりつけ歯科医」を持ち定期的に予防処置を受けている者も含まれているが、未受診者にむし歯が多い傾向がある。今後は、市町村の歯科保健事業へ参加しない児や参加回数が少ない児への対策が大きな課題である。

永久歯のむし歯予防対策としては、幼稚園・保育園29施設で4、5歳児を対象に、フッ素洗口が実施され成果を上げている。園でのフッ素洗口実施は、乳歯のむし歯予防対策としても効果が大きい。また、歯科衛生士による巡回歯科保健指導は、歯科保健についての正しい情報の普及啓発に大きな役割を果たしている。今後は歯科保健対策の遅れが目立つ小中学校においても科学的根拠に基づいた対策を採用する必要があると思う。

### 6. おわりに

8020の実現のためには、歯を失う原因の約9割を占めるむし歯と歯周病に対する効果的な予防対策の実施が必要不可欠である。むし歯予防対策としては、フッ化物の利用、特に公衆衛生的な方法の普及が重要である。また、歯周病予防対策としては、学校歯科保健での歯肉炎予防対策の充実、市町村や職場での成人歯科健診の充実、かかりつけ歯科医の機能を活用した予防対策の推進などが重要だと考えている。今後、富岡甘楽地区においては、遅れが目立つ学齢期のむし歯予防対策の充実、さらには、最も優れたむし歯予防対策で、各種フッ化物利用の原点でもあるフロリデーション(水道水フッ素化)の実施等を視野に入れた活動が必要になると思う。